

災害対策用機械について

管内において台風や地震、集中豪雨等により、災害が発生した場合、現地での情報収集・情報提供活動及び応急・復旧作業が迅速かつ適切に行えるよう、災害対策用機械や点検用機械を整備しています。

また、これらの機械については災害時、平常時にも、地方自治体等にも貸し出せるようになっています。

災害対策用機械保有状況

建設機械名	規格	台数
災害対策本部車	拡幅型	1
衛星通信車	衛星通信移動局	1
照明車	25KVA	2
応急組立橋	L=30m、W=6m L=50m、W=7.5m	2
情報収集車	無線装置付250ccバイク	2
橋梁点検車	歩廊式	1
標識車	LED式	2

災害対策本部車

台風・集中豪雨・地震等による河川・道路の被災現場に速やかに出動し、情報収集、応急対策の指揮や工法の検討・広報活動を行う現地対策の「情報本部」を構成します。

特徴として、走行時は小型トラック（四七サイズ）で普通免許で運転可能。リアボディを拡幅して居住空間を増やすことができます。

無線設備を備え、衛星放送・テレビの受信ができ、現地での情報収集・連絡が行えます。

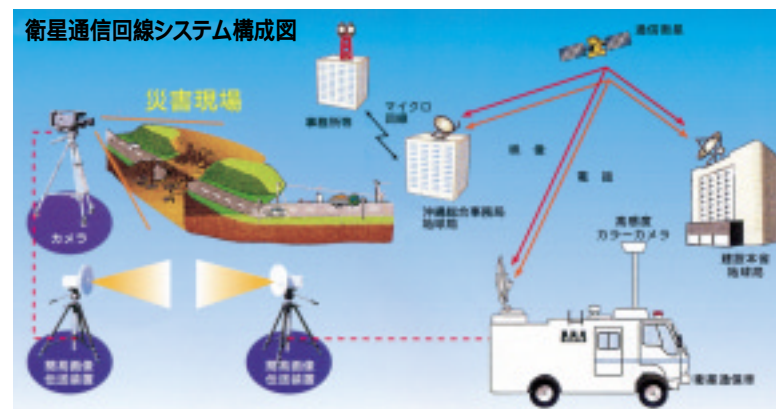
長期の現地対策にも対応できるよう、冷暖房設備、厨房設備、簡易ベッド設備、シャワー、乾燥式トイレ、発電機を備えています。



災害対策本部車

衛星通信車

衛星通信移動局として、デジタル映像機器を使用して災害現場の映像を行います。



衛星通信車

映像を衛星を介して送ることができます。また、車両が入らないところは、簡易画像伝送装置で映像を送ることができます。

また、臨時の電話・ファクス回線を設置することもできます。

照明車
被災現場の夜間の情報収集、応急復旧作業を安全に管理するために、単独あるいは、災害対策本部車、衛星通信車と組み合わせて使用します。

10m昇降式のクレーン上部に20KWの照明灯四灯を備え、災害復旧、情報収集の活動に十分な明るさを備えています。



照明車

情報収集車

災害時、四輪自動車が行き通じにくい現場からの情報収集と災害本部への連絡を行うため、自動車より機動性の高い二輪車を導入しています。

応急組立橋

洪水時の、橋の流失、落下、土砂崩れ等の道路の寸断時に、応急的に仮橋を架けて交通を確保します。

B活荷重対応、主橋はピン接合式、支間は十八mから四m毎に五十mまで使用可能で、手延工法、クリンでの架設ができます。また、二十、三十m対応もあります。



応急組立橋



橋梁点検中

橋梁点検車

橋梁の側面や裏面を安全で簡単に素早く点検できる橋梁の異常損傷を早期に見つけることができる。特徴として、トラックに架装されていて迅速に移動し、一車線分で作業する事ができ、歩廊式作業床を自由に歩くことで任意の位置から点検・作業ができます。

作業床は昇降・伸縮・旋回が自由にでき、車両を移動させながらの点検もできます。

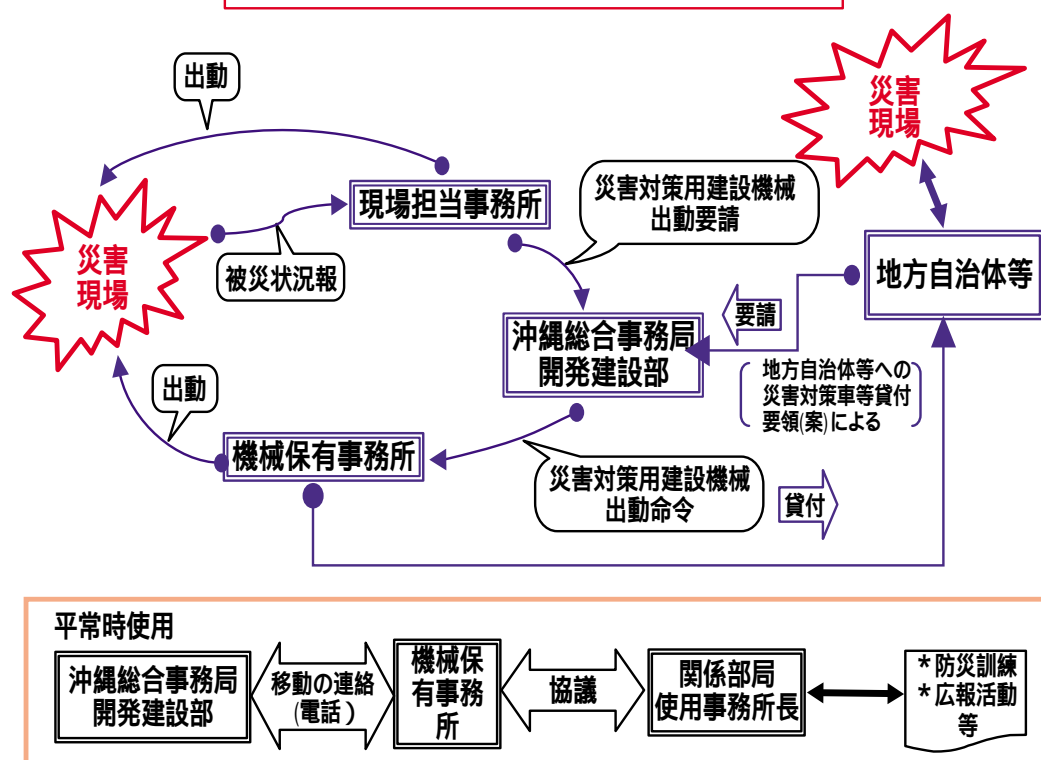
標識車

工事中及び災害時に安全に交通規制を行うために、後部の表示板により、歩行者や住民及び車両に告知



橋梁点検車

緊急時における災害対策用機械出動の流れ



を行います。

LED式の大型表示板で、回転灯とともに昇降し、高い位置で遠くからの視認性を高めています。

災害対策用機械の出動について
災害時には緊急時における災害対策

策用機械出動の流れのとおり、災害対策本部長に要請し、出動命令を出します。

防災訓練、広報活動等の平常時においては、各配置事務所長の協議により、使用します。